

水川 智沙「ペットボトルリサイクルの課題とリユースペットボトルの推奨

～ドイツの取り組みに学ぶ～」

私たちが普段便利に利用しているペットボトルですが、使用後はどうなるか、真剣に考えることはあまりないのではないのでしょうか。そこら辺に投げ捨てるのは当然良くないにしても、ペットボトル用のゴミ箱に捨てれば、いつか誰かがリサイクルしてくれるから、特に問題ないだろう。……こう書いている私自身、さしたる深刻な問題意識も持ち合わせずに、ペットボトルの恩恵にあずかっている消費者の一人です。

しかし、ペットボトルのリサイクルが機能不全を起こしている、ペットボトルをリサイクルして作られたチップが大量に売れ残っていること、近年では中国に“輸出”され、海外に流出していることなどの問題が、マスコミで報道されています。

さらに、リサイクルが万能ではないという批判も出されています。私たちは、ペットボトルをリサイクルしさえすればいくらかでも使い続けて良いのだ、という幻想から、そろそろ目覚めて、発想の転換を迫られているのかもしれない。

水川さんは近年論争の的になっているリサイクル問題、特にペットボトルのリサイクルに焦点を合わせて、解決法を懸命に模索しました。リサイクルをめぐる百家争鳴、甲論乙駁で、主要な議論や研究を読んで整理するだけでも大変な作業だったでしょう。水川さんは数多くの本や論文を読破し、リサイクル批判に関する先行研究を4つに整理しました。ペットボトルのリサイクルの問題点を明らかにしてから、解決の方途を（リサイクルではなく）リユースに見出しました。

ドイツにおけるリターナブル・ペットボトルの取り組みを先進例として紹介し、最後に日本への導入可能性を検討しています。もちろん、環境先進国たるドイツと、日本とをすぐに結びつけられるとは限りませんが、大きなヒントが得られたと思います。

リユースという解決の方途を見出すまでに、水川さんは長いこと悩み、模索を繰り返しましたが、それだけに、得られた結論は貴重です。

この論文は、リサイクルに関する数多くの文献を読みこなし、参照しているという以外にも、さまざまな優れた点があります。ひとつは、序章から終章に至るまで、論理一貫して議論を展開しており、説得力が高いことです。脚注も豊富についていて、水川さんが文献やデータに基づいて慎重に議論を展開していることをうかがわせます。

また、ゴミ焼却施設を訪問して視察したり、スーパーマーケットで消費者へのインタビューを行い、ペットボトルに関する意識調査をしたりして、文献だけに頼らず自分の足で生の情報を入手したことです。論文執筆にあたってのさまざまな苦勞が見事に生かされていると言えましょう。実によく努力しました。